

平成27年度 全国産業安全衛生大会(愛知県)で1800名 を参集した労働劇
あの感動・臨場感をDVDでもう一度

全国初
本格的
労働劇

労働劇DVDのご案内

労働劇 波紋 “ある工場の悲劇”

死亡労働災害を起こし次々に起こる

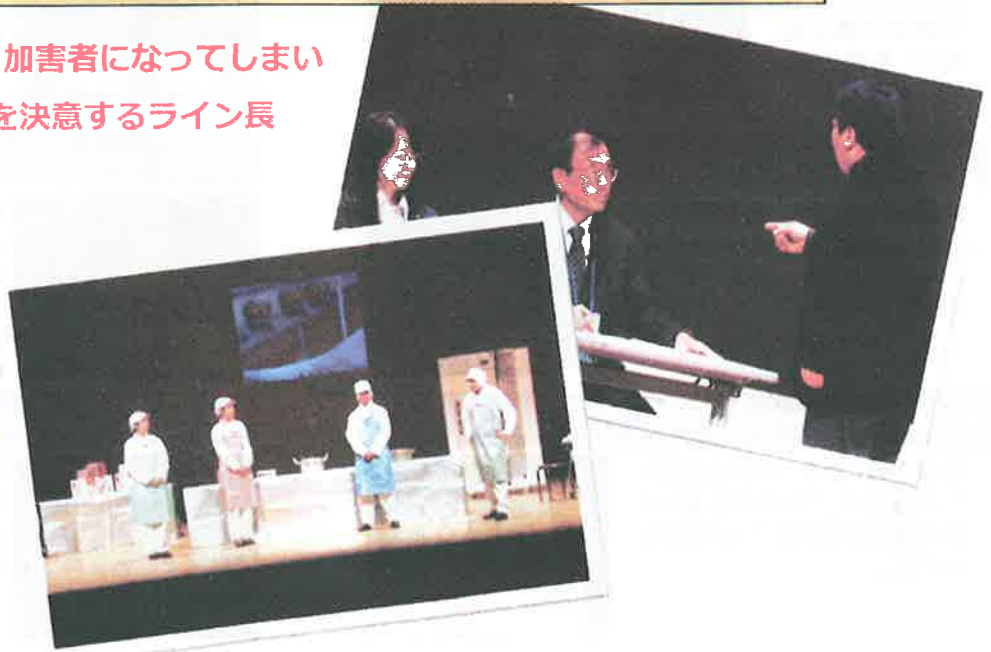
難題に苦悩する社長



労働劇 “まさかパワハラ加害者になるなんて”

パワハラ加害者になってしまい

退社を決意するライン長



制作 愛知県下各労働基準協会

名北・名古屋東・名古屋南・名古屋西・岡崎・豊橋・一宮・半田・刈谷・豊田・瀬戸・津島・江南・西尾 各労働基準協会

安全大会、安全協力会、各種会合での特別講演枠としてご活用が可能です

ステージ上にリアルなトラッククレーンが、目の前で死亡事故が発生。監督署の捜査会議、民事裁判、会社は廃業。総勢40名の迫真の演技で、事故が関係者に及ぼす様々な波紋を再現。労働災害の本当の怖さ、悲しさを実感し、これからの防止に結び付けてください

労働劇 “波紋 ある工場の悲劇”

脚本・幕間解説

庄司法律事務所
所長 弁護士
前愛知県弁護士会副会長
庄司 俊哉氏

労働問題に詳しく労働災害に関する活動も多く安全配慮義務に関する行政、労働基準協会等での数々の講演を行う。元愛知労働局紛争調整委員。愛知県弁護士会が行う裁判劇も手掛ける。



出演

愛知県下各労働基準協会
職員・事業場安全担当者

名北・名古屋東・名古屋南・名古屋西・
岡崎・一宮・半田・刈谷・豊田・瀬戸・
津島・江南・西尾・豊橋
の14労働基準協会

主演の名北協会職員 川崎

14協会の職員と役員事業場の安全担当者の総勢40名が出演し、大道具作成等を行う。愛知県下では各協会が活発な活動を行っており、14協会共催の事業も多い。



演出・舞台設計

監督 一般社団法人名北労働基準協会
専務理事・事務局長

特定社会保険労務士 市之瀬高司

副監督 一般社団法人名北労働基準協会
労務管理推進室長

社会保険労務士 藤原 朋子

両名とも協会業務を行う他、多数の講演・労働相談を行い、愛知県下で行う労働紛争劇も手掛ける。



劇のあらすじ (全8幕 75分 40名出演)

無資格者のクレーン操作による死亡事故を起こした大手建材メーカー構内下請会社の伏見建材。事故の波紋は亡くなった労働者の家族だけでなく、事故を起こした労働者、他の社員まで及んでいく。刑事上の処罰、民事上の賠償責任が降りかかる中、経営者の兄弟は必死に会社を守ろうとする。

しかし、兄弟は病床の先代社長の最後の言葉に、経営者としての責任の重さを悟り重大な決心を固める。

第1幕 工場出庫口

会社の専務の目の前で無資格者のトラッククレーン操作で若手労働者が死亡。その場にはいなかった社長は「労働者が勝手にやったこと」と責任を感じない。



第5幕 弁護士事務所での打合せ②



弁護士から予想される損害賠償額の高さを聞き、頭を抱える社長。しかし「会社には責任はない」と主張し、遺族と裁判で争う決意を固める。

第2幕 亡くなった労働者の初七日

「お金なんていらぬ。元気な夫を返して」亡くなった労働者の妻の言葉が、専務の胸に突き刺さる。



幕間の庄司弁護士解説



第6幕 民事法廷



民事裁判で、労働者側の弁護士から厳しく安全配慮義務違反を追及され、それでも徹底的に抗弁する社長。

第3幕 監督署での捜査会議

監督署での署長、監督課長らの捜査会議。事故原因と責任の所在を追及し、会社と専務の送検を決定。



第7幕 先代社長の病室



病床の先代社長の「従業員を大切に」の言葉にやっと責任の重さがわかった社長。会社を閉め賠償に応じることを決意。様々な人が頭をよぎる。感動の5分間。

第4幕 弁護士事務所での打合せ①

事故を軽く考え、対応を相談した弁護士に、「人の命を奪った罪の重さを理解して」と諭される社長。



第8幕 伏見建材新事務所



5年後に離散した従業員を呼び戻し再建した会社で、「二度と事故は起こさない」と全従業員と誓う社長。

上演実績・ご感想

- ◆平成26年11月 建設業労働災害防止大会 500名
- ◆平成27年 3月 名北・尾北労働災害防止大会 350名
- ◆平成27年10月 全国産業安全衛生大会 1800名
- ◆平成28年10月 安全大会(全国展開 建設業) 800名

- ◆労働劇に関してはリアリティに溢れとても素晴らしい内容と演技でした。安全に対する意識を再認識しました。(製造業 安全衛生担当者)
- ◆事故の悲劇を認識し、「事故を発生させない」という強い意識を持つことができました。(建設業 安全担当者)

新しく立ち上がった食品製造会社の弁当製造ライン。責任者に抜擢され張り切りすぎて、パート社員にパワーハラスメント行為を行ってしまう新任のライン長。合同労組との対峙など一人のパワハラが会社に与えてしまう影響や、パワハラにならない指導方法などを訴える。

労働劇 まさかパワハラ加害者になるなんて

脚本・幕間解説

フローリッシュ社労士事務所 所長
一般社団法人 名北労働基準協会
メンタルヘルス相談室長
産業カウンセラー・特定社会保険労務士
新美 智美氏

数多くの企業からメンタルヘルス等の相談を受ける。愛知県下各労働基準協会で開催するメンタルヘルスマネジメント講習の講師、またメンタルヘルスやハラスメント防止の各種社員研修の講師も行い、愛知県内外にて活躍中。



出演・演出・舞台設計

出演 一般社団法人 名北労働基準協会 職員

名北労働基準協会の職員12名が出演。愛知県下各労働基準協会にて実施する労使紛争解決手段実演セミナーや企業に訪問して行う出張労働劇など数多くの劇を演じる。本来業務の間をぬって稽古を重ね、実際の労働劇をみた観客からは高評価をいただく。労働基準協会職員ならではの、労務管理・安全衛生管理に対する強い思いで演技に熱が入る。

主演 一般社団法人
名北労働基準協会
総務部チーフ
麦島 与也

愛知県下各労働基準協会にて実施する労使紛争劇などをはじめとする数々の労働劇に出演。



監督 一般社団法人
名北労働基準協会
事業企画推進部主任
川崎 心也

監督兼役者・大道具の作成を行う。労働劇「波紋 ある工場 の悲劇」では主演をつとめる。



劇のあらすじ (全6幕 75分 12名出演)

株式会社梅谷は食肉加工を行う食品製造会社で、自社製品のハムを使ったお弁当の製造ラインを新たに立ち上げる。ライン長としてお弁当屋の店長経験がある遠藤が着任するが、他の弁当製造会社からきたベテランパート社員の本田との確執が生まれる。お弁当の評判が悪く売り上げも伸びず、ライン長として苦悩する遠藤。

そんな中、仕事が混乱したときに本田にパワハラを行ってしまい、うつ病で退職させてしまう。会社に合同労組までやって来て、遠藤は会社への迷惑をかけたこと、本田への指導の仕方に問題があったことを思い、退職を決意するが…。

第1幕 弁当部門の立ち上げ

新たに立ち上がった弁当部門。ライン長として抜擢された遠藤は一人奮闘するが、弁当製造会社勤務の経験のあるベテランパートとして働く本田との確執が生まれ始める。



第4幕 合同労組との対峙

合同労組との対峙し委員長と書記長に問い詰められる総務部。机をたたいて激しく詰め寄る書記長と、その場で聞く話も多く対応に苦しむ酒井部長と青山課長。



第2幕 波乱の弁当部門



売り上げが伸び悩む弁当部門。パートの本田との確執は埋まらないまま、弁当へのクレーム電話への対応の際に、本田を突き飛ばすパワハラを行ってしまう。その後、本田からうつ病の診断書が提出されるが。

第5幕 ライン長 遠藤の決断



総務部と合同労組の対峙の後、会社の前で合同労組がピラを撒き、街宣車までやってきてしまう。会社に与えた影響を重く受け止め、自分を責める遠藤ライン長は退職を決意する。

第3幕 総務部に届く手紙

総務部に届く一通の手紙。合同労組からの団体交渉申込に、総務部は事実確認に動き始める。



幕間の新美産業カウンセラー解説

第6幕 新たなる出発



会社から退職を引き止められ、3年後に再びライン長となった遠藤。パワハラにならない適切な指導を行い、売り上げ増加を目指すため、従業員と決意を新たにする。

上演実績・ご感想

- ◆平成27年 6月 管理者研修(全国展開食料品製造業) 100名
- ◆平成28年 3月 名北・尾北労働災害防止大会 350名
- ◆平成28年 6月 安全大会(全国展開建設業) 100名
- ◆平成28年 6月 安全大会(全国展開建設業) 200名
- ◆平成28年 9月 安全大会(愛知県大手ビルメンテナンス業) 200名

- ◆パワハラや会社に与える影響など実際の人が演じることでわかりやすく理解ができた。(製造業 人事労務部長)
- ◆合同労組との対峙は、過去に経験をしたが実際の場面をみているかのような気持ちになった。(サービス業 総務課長)